

第56回定時株主総会 追加説明

1. 中期的展望における経営方針について

当社は、2000年5月に、ミネベアを「高成長会社」、「高収益会社」にすることを目的とした3カ年経営計画を策定し、対外的に公表いたしました。その後の世界経済の変動等を勘案して見直しを行い、その結果を、2002年5月に新3カ年経営計画として対外発表いたしました。

3カ年経営計画達成の為に三つの基本方針を定め、これを経営の三本の柱としておりましたが、新3カ年経営計画においてもこの三つの基本方針／経営の三本の柱には変わりはありません。

経営の三本の柱の第一は、「最も収益力の高いベアリング、およびベアリング関連製品事業の一層の強化、拡充を計ること」であります。

第二は、「精密小型モーターを中心とする回転機器事業を、ベアリング、およびベアリング関連製品事業に並ぶ柱に育て上げること」であります。

そして第三は、「全ての製品について、高付加価値製品の比率を引き上げると同時に製品の幅を広げ、より広範囲な市場に対応できるようにすること」であります。

これら経営の3本の柱の実現は、全てミネベアの最大の特徴であり、その強さの源泉である、「超精密機械加工技術」と「大量生産技術」が基本となっております。

なお、新3カ年経営計画では、「開発技術力の強化」、「中国事業戦略」、「営業組織改革」、「不採算事業の立て直し」を特に重要な施策として推進してまいり所存であります。

2. タイにおける生産活動について

1982年に、バンコック市の北方75kmの所にある、アユタヤ市で生産活動を開始して以来、20年が経過いたしました。

現在タイは、4地域に工場群が展開し、従業員約3万1,000人、ミネベア・グループの総生産高の約60%を産出する、ミネベア・グループ最大の生産拠点となっております。

2000年10月にバンパイン工場の隣接地を購入し、土地面積を83万平方メートルと倍増させたほか、2001年3月には、床面積約25,000平方メートルの流体軸受と流体軸受搭載型HDD用スピンドルモーターの専用工場を竣工させるなど、ミネベアの主力生産基地として拡充を計っており、今後も一層の拡大発展を計る予定でございます。

3. 上海における生産活動について

当社は、中国オペレーションを、21世紀における、ミネベア・グループの更なる発展の要と位置付けて、事業を推進しております。

1994年に、上海市郊外にミネベア・グループ初の中国現地法人を作り、ミニチュアボールベアリングとファンモーターの生産を開始いたしました。

その後、生産は順調に引き上り、現在の生産規模は、ボールベアリングが、月産約2,400万個、ファンモーターが月産約550万台でございます。

ファンモーターは、今年度中に月産700万台に引き上げることを社内目標にしております。

昨年10月末に西岑工場敷地内に完成した、床面積約18,000平方メートルの新工場に於いて、ファンモーターと歪みゲージやロードセル等の計測機器の生産を開始いたしました。

ファンモーターについては、新工場の完成により、スペース的には、既存工場と合わせて月産1,000万台の生産が可能となりました。

ミネベア・グループの総生産高に占める、中国の比率は約 11%強であり、ミネベア・グループの生産基地としては、タイに次いで 2 番目の規模となっております。資本金額 209 億円、機械設備・工場建て屋など固定資産総投資額 516 億円、当期の売上高 241 億円、2002 年 3 月末現在の従業員数は、約 4,000 人でございます。

ミネベアは、中国でのミネベア製品の市場が、将来極めて大きくなるであろう事を念頭において、1994 年に中国での生産を開始致しましたが、その中国市場は、今予想通り拡大をして来ております。今後、中国市場、及び世界市場の動向を良く見極めながら、時宜を逸することなく、中国工場の生産品目の増加、生産規模の拡大を計ってまいります。

4. 借入金の返済について

当社は 1997 年 4 月より、借入金返済を経営の最優先課題の 1 つとして、グループを挙げて取り組んでまいりました。その結果、グループ全体の借入金残高は 1997 年 3 月末の 3,636 億円から当期末には 1,827 億円にまで減少いたしました。現預金を差し引いたネットベースでは、同じく 3,513 億円から 1,687 億円に 52% の減少となり、財務体質は大きく改善されております。当期はグループ全体で、前期末と比べネットベースで 45 億円の減少となりました。

今後も継続的に借入金返済に努めてまいります。

5. 連結損益計算書について

お手許の招集ご通知の 23 頁、24 頁にご参考として連結貸借対照表および連結損益計算書を添付しております。このうち連結損益計算書について、その概要をご説明申し上げます。

売上高は、2,793 億 4,400 万円であり、前期比 77 億 100 万円の減少、営業利益は、219 億 7,200 万円であり、前期比 110 億 500 万円の減少、経常利益は、159 億 9,500 万円と、前期比 87 億 3,100 万円減少いたしました。

また、更なる企業体質の改善をはかるため次の様な対策を実施し、特別損失に計上いたしました。

1. 米国コネチカット州の電源開発子会社パワー システムズ社を電源事業再編の一環として閉鎖し、清算すると共に、メキシコ国ソノラ州の電源の生産子会社ミネベア エレクトロニクス メキシコ社を売却いたしました。この結果、関係会社事業整理損として特別損失に 4 億 1,100 万円を計上いたしました。
2. 当社は、この度、1995 年より続いておりました社有機 DC-10 の運行を次の理由により終了することといたしました。
 - (1) 当社社有機で運搬しているタイ工場とシンガポール工場向けの日本調達資材等の現地調達化が今後更に進むことで、日本からの社有機積載貨物が減少することが予想される事。
 - (2) 現有機体は、安全面からも新機体への変更が必要な時期にきておりますが、現有機と同様な客室と貨物室を備えた適切な機体が見つからないため、社有機運行を続けるには、通常機体を購入して客室と貨物室を持った機体に改造する必要がありますが、それに必要な投資額は、社有機運行の採算点を超えてしまう事。

以上の理由により、社有機運行は終了いたしますが、これに伴い、社有機を所有している米国ネバダ州の子会社、NMB エアー オペレーションズ社を清算することを決定いたしました。これに伴い関係会社事業整理損として特別損失に 3 億 6,700 万円計上いたしました。

3. 単体で計上した NMB プレジジョンツールアンドダイ社の閉鎖損の内、連結決算上処理すべき為替換算調整勘定 1 億 5,900 万円を、関係会社事業整理損として特別損失に計上いたしました。

また、法人税等では、法人税、住民税及び事業税 49 億 1,800 万円に加えて、税効果会計により、法人税等調整額に 27 億 1,100 万円を計上いたしました。
以上の結果、当期純利益は 52 億 9,800 万円となり、前期に比べ 95 億 2,700 万円の減少となりました。

6. 流体軸受の今後の見通しについて

2000 年 3 月に、ハードディスク駆動装置(HDD)とその関連部品の世界最大のメーカーである米国のシーゲート社と「流体軸受 および 同軸受搭載の HDD 用スピンドルモーター等」の「クロスライセンス契約」、「ノウハウライセンス契約」、及び「製品供給契約」を締結し、流体軸受ビジネスに参入いたしました。

現在、当社では 3.5 インチ HDD 用を中心に、数種類の流体軸受スピンドルモーターをシーゲート社とシーゲート社以外のユーザー向けにタイ工場で量産中であります。

現在、流体軸受スピンドルモーターの生産能力は、月産 250 万台ですが、本年中に 350 万台に引き上げるべく準備を進めております。

7. 自動車市場について

自動車業界は、既に成熟期に入っており、今後、台数面で、現在の年間約 5,000 万台を越えての急成長は望めませんが、省エネルギー、安全性、快適性等の要求レベルが高くなって来ており、これに対応する高度な制御システムに必要な、レゾルバーなどのセンサーや 高性能モーターの需要が急速に拡大しつつあります。

これらの製品は、ドイツ子会社のPMDM社に代表されるモーター開発力、ミネベア自身が、航空機搭載機器や防衛庁用機器の分野で長年培ってきたレゾルバーなどの開発・設計技術、そしてミネベアの強さの源泉である超精密機械加工技術、大量生産技術が大いに活きる製品であり、自動車市場はミネベアに打ってつけの市場であると考えております。

当社の自動車用の高性能モーターや センサーについては、将来柱となる案件が次々と成約されてきております。

当社では、これらのモーターやセンサーを単品で納入するのではなく、それらを組み合わせた制御ユニットとして納入することに重点を置いております。

新規案件の多くは、2004 年以降に生産開始となる為、2004 年度が立ち上がりの年となり、その後、飛躍的な収益拡大を期待しております。

現在生産中、或いは開発中の主要製品は、

「ダッシュボードユニットメーター用モーター」、
「ヘッドライト光軸調整用モーター」、
「次期EPSモーター」、
「車間距離センサー用モーター」、
「電磁クラッチ」、
「電動ブレーキ用モーター」、
「トルクセンサー」、
「レゾルバー」等々であります。

以上、ご説明申し上げます。